

幸せの歌



10月23日 第14回全日本ホルスタイン共進会の様子

JA宗谷南

2015NEN
12GATUGOU
～SEASON45～

全日本ホルスタイン共進会



10月23日、26日に安平町北海道ホルスタイン共進会場にて、第14回全日本ホルスタイン共進会が開催されました。枝幸町からは、内田喜久男さんの5部、ハッピーライン アメイジング エツセ、小椋義則さんの3部、TMF ホンマ エミール チップ マートンの2頭が町共進会、道北共進会、北海道ナショナルシヨウを勝ち進み、晴れの舞台に出品されました。

出品牛の体調を考え19日に会場入りしましたが、すでに沢山の方々が激励に來られていました。また、21日には北海道出品者の結団式を行い、気持ちも高まってきました。24日の比較審査は、日本ホルスタイン登録協会の千葉義博氏による審査が行われ、それぞれの出品牛が、全国で3番目の成績の優等賞3席に輝きました。

次回の全日本ホルスタイン共進会、宮崎県大会に向けて新たに気持ちも高まり、8日間に亘る共進会も閉幕しました。



3部 優等賞 3席
TMF ホンマ エミール チップ マートン(小椋義則)



5部 優等賞 3席
ハッピーライン アメイジング エツセ(内田喜久男)



北海道酪農パビリオンも開催しておりました。



審査員
千葉義博氏

よつ葉ミルクフェア IN TOKYO



宗谷地区参加メンバー

左から風烈布・工藤真由美さん
東宗谷・円丁康子さん
岡島・中島瑞希さん
東宗谷・前田ゆう子さん
(東京スカイツリーにて)



よつ葉乳業東京支店研修

今年のよつ葉乳業ミルクフェアは岡島地区中島牧場の中島瑞希さんと風烈布地区工藤真由美さんが参加されました。
旭川空港から東京支店にて、よつ葉製品を使用したパン・お菓子作りの研修を行いました。
2日目は有楽町駅前にある北海道どさんこプラザにて北海道牛乳の試飲や、よつ葉手作りチーズ宗谷ゴードアの試食を呼びかけました。販売用に用意した宗谷ゴードアはその日のうちに完売しました。
3日目は東京スカイツリー内東京ソラマチにて、よつ葉乳業直営店として営業している、よつ葉ホワイトゴージにて市場調査を行いました。昼食をはさみ、羽田空港から旭川空港へ移動し、ミルクフェアの全行程を無事終了しました。



有楽町駅前 北海道どさんこプラザ



東宗谷・宗谷南売り子活動



JA東宗谷・久保さんが持ち寄った着ぐるみ。呼びかけ効果アップ！



宗谷ゴードア無事完売しました！

どんより曇った天気でしたがたくさんの来場者の方が試飲・試食を楽しまれました。



とても窮屈でした...



懇親会



聖母堂の文化財に指定



東京スカイツリー見学
タワー基部にソラマチ
タベテラスがあります。

「ソラマチタベテラス」には
ホワイトコージ以外にも
多くの飲食店が立ち並ん
でいます
中にはスカイツリー限定
商品もありました。



よつ葉乳業直営店
「ホワイトコージ」
よつ葉乳業製品を使ったク
レープやアイスを販売中



東京散策中立ち寄った
築地本願寺本堂
他にも自由時間中皇居周辺
なども散策しました。



農協懇談会

11月19日・20日で農協懇談会が行われました。

始めに、組合長の挨拶の中で、大筋合意されましたTPPについて今後の対策、畜産クラスター事業等の近況報告がありました。また、農協運営で今期決算は、昨年並みの状況が見込まれ組合員が減少している中、日頃の努力に対するお礼を述べられました。

生乳単価が95円、良質乳生産そしてプレミアム乳価対策等によりさらに単価が高くなっている事、また個体販売額も高く、近年にない状況ではありますが、こういう状況の時こそ来年度の経営計画を含めて基盤を固めて頂きたいとも述べられました。生乳生産は11月上旬で前年対比101%を超えてはいますが、今後も離農者が予想されている中、子会社であるアグリサポート枝幸で生産法人を設立し、搾乳部門を行うことで生乳生産量の確保、そして枝幸町の基盤産業でもある酪農業を維持繁栄させていきたいということで、組合員の皆様のご理解を頂きたいと述べられました。

出席された組合員の方々より様々な意見、要望が出され有意義な懇談会となりました。

懇談会終了後、オードブル等でテーブルを囲み、和んだ雰囲気の中でも農業情勢等の話で盛り上がっていました。



役員視察研修

11月10日～12日に2泊3日の日程で役員視察研修を開催致しました。

本年は3年に1度開催されますJA北海道大会をメインに視察研修を計画し、役員任期の最終年ということもあり、役員全員の方々が参加されました。

初日は、昨年9月末より放送開始のNHK連続ドラマ小説「マッサン」のモデルでもあるニッカウヰスキー工場を見学致しました。

ニッカウヰスキー創業者である竹鶴正孝さんがウヰスキー製造を始めた余市蒸留所は、スコットランドに似た冷涼で湿潤な気候、豊かな水源と凜と澄んだ空気がそろうた場所こそが、理想のウヰスキーづくりに欠かせない場所と考え、さまざまな候補地から積丹半島の付け根に位置する余市町に決定致しました。

今現在、ニッカウヰスキー余市蒸留所は、「いってよかった工場見学、社会見学」ランキング全国1位となっております。



2日目は、役員視察研修のメインでありますJA北海道大会に参加致しました。札幌コンベンションセンターにて開催されたJA北海道大会は3年に1度、全道のJA関係者が集結し、今後3年間の北海道JA組織の基本的な運営方針など、大会を通じて確認することを目的として開催されております。本年度はJA、中央会、連合会関係者等約2,300人が参加し、メインテーマであります、『北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かで魅力ある農村」』の実現に向けて意志結集することを確認し、又、TPPから北海道農業を守るための特別決議も採択されました。

最終日は、組合員の方々が出荷されました生乳がよつ葉工場にて全粉乳となり、それを使用して菓子製造販売をしています石屋製菓を訪問致しました。石屋製菓株式会社は1959年に設立され、1976年にヒット商品となった『白い恋人』を製品化し、現在も「地元のものには地元に来て買ってもらうことにより、北海道銘菓としての魅力を維持し続けられている」と言うブランド戦略を崩さず、あくまでも販売のベースを北海道に限定しているとのこと。その後は砂川ハイウェイオアシスにて昼食をとりつつ枝幸町へ戻り、無事研修を終えました。

振興会・実行組合長会視察研修

10月14日～16日の三日間で、JA宗谷南農業実行組合長・酪農振興会長視察研修を実施致しました。初日は移動日で、早朝に枝幸を出発し、道中昼食を取りつつ、夕方函館に到着しました。

翌日の午前には、TMRセンター視察ということで、有限会社八雲フィードデザインを視察しました。有限会社八雲フィードデザインは、平成17年に道南地域で初めてのTMRセンターとして設立し、平成22年には搾乳部門を法人化して、TMRセンターが協業法人としてスタートしました。そして、経産牛500頭、年間生乳生産量3,800t(H22年)ということで、道南でトップになったこともあるとのこと。視察としては、主に牛舎(ロータリーパーラー)を見て回り、飼養管理の方法などのお話を伺いました。

歌登地域では以前から廃プラをリサイクルに出しておりましたが、枝幸地域では、今年の春から苫小牧清掃舎へ廃プラをリサイクルに出しているということで、午後より苫小牧清掃舎へ視察を行い、どのようにリサイクルされているかを視察しました。リサイクル方法としては、ペレット状に加工され、製紙工場の燃料として再利用されているとのことでした。その後、札幌に泊まり翌日の視察へ向け、英気を養いました。

最終日の16日にはホクレン本所を訪問し、世界の穀物需給情勢や管内の酪農情勢など、最近の農業情勢について説明を受けました。午後に札幌を出発し、今回の視察先の話に花を咲かせながら枝幸へ戻り、無事視察研修を終えました。



経済部「秋の大感謝祭」

日頃より購買事業に対し御理解と御協力を賜り誠に有難う御座います。

今年は積雪も少なく過ごしやすいシーズンとなっているのではないのでしょうか。

さて、10月下旬に開催した秋の大感謝祭ですが、農薬や酪農資材を始め、新車・中古車などの車両販売の他、電化製品、タイヤ等の展示を致しました。天候にも恵まれ、一般のお客様も多数ご来店して頂いたこともあり、大盛況となりました。来年も、春と秋に開催を予定しておりますので、多くの方のご来店をお待ちしております。

また、今後とも様々な取り纏めなどに取り組んでいきますので、ご利用ご協力の程宜しくお願い申し上げます。





「一日ホクレン」の開催

10月26日(月)に、一日ホクレンが酪農振興センター会議室にて開催されました。一日ホクレンとは、ホクレン事業の概況・実績等を報告するもので、5年ぶりの開催となります。JA宗谷南の役員、又、青年部、女性部代表者合わせて20名が参加しました。ホクレン稚内支所、石黒順一支所長の開会の挨拶で始まり、吉田英樹次長より基本方針と戦略の中で、ホクレンの改革プランとして「販売・購買・営農支援を三位一体とする事業運営」を設定し、27年度事業計画については、所得向上・コスト低減を優先事項とした重点方針を掲げていると説明を受けました。その後、各事業において具体的な重点方針として、最近の情勢を交え説明を受け、各事業の報告後、質疑応答が行われ、最後に組合長の閉会の挨拶にて終了しました。



留萌管内産米PRキャラバン

「るもい米」のブランドとして、米袋にこちらのシールを貼付して販売しております。組合員の皆様にお配りしましたお米にも、このシールが貼られております。



今年で6回目となる訪問ですが、今年で一区切りを付けることとしました。しかしながら、来年度以降も別の形で交流を続けていきたいという事で、互いに健闘を祈り、キャラバン隊を見送りました。

11月30日に、留萌産米のPRとして、キャラバン隊が当農協を訪問しました。JA南るもいの橋村組合長、JA苫前町の松原組合長、JAオロロンの長谷川組合長を始め、ホクレン留萌支所やJA北海道中央会旭川支所の職員が来所し、今年の留萌産米について説明を頂きました。27年産米の水稲の作柄については、6月から7月にかけて、低温と日照不足に見舞われましたが、深水管理の徹底や適切な肥培管理など基本技術の励行に努め、又、その後の天候が回復したこともあり、23年産から5年連続で豊作を迎えることが出来たそうです。そして品質状況についても仕分4品種全てにおいて全道平均を上回り、食味レベルの高い低タンパクのお米を生産できたということです。



留萌産米を受け取るJA宗谷南 向井地組合長(左)と、JA南るもい 橋村組合長(右)



宗谷南農協女性部 生活工夫展

毎年恒例、宗谷南農協女性部生活工夫展が開催されました。

今年は普及センターの岡所長・小泉専門普及員をお招きし、女性部の皆さんの作品の見学や試食を楽しんで頂きました。
女性部部长奥出きいさんにはトン汁を作って頂き、談笑と共に昼食会を行いました。



当日出品された作品の一部を紹介致します。



編集委員
 浦高森滝川伊村
 谷本川口合藤田
 正等忠直直太
 憲 幸也樹良



全て紹介しきれないほど多数の作品が出展されていました。